

Wesley Hall News



幼稚園 卒園式 2006年3月

青山学院スクール・モットー

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World

(新約聖書 マタイによる福音書 第5章13～16節より)

No.91
2007.3.5.

特集 卒業

説教「夢の実現に向かって」……………坂上 三男… 2

●メッセージ

幼稚園 ……………阿部 浩美/石橋 エリ/久 洋子… 4

初等部 ……………鈴木百合香/鬼頭晃太郎/中田久美子… 5

中等部 ……………横山 道行/須藤かりん/中川 雄暉… 6

高等部 ……………池田 敏/福田 朋世/米島百合子… 7

女子短期大学 ……………松林亜友美… 8

大学 ……………内山 寛平/西条 真心/立山 朝子… 8

●出発にあたって—先生がたからのすいせん図書— …………… 10

●青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料 その18 氣賀 健生… 12

●私の教会 日本キリスト教会 柏木教会 ……………久保小枝子… 14

●宗教センターだより …………… 15

説教

「夢の実現に向かって」

マタイによる福音書 14章22～33節

坂上 三男

高等部宗教主任

この春卒業する皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、今新しく進む道への夢を大きく膨らませていることと思います。皆さんのそれぞれの夢が少しでも実現する方向へと進むことを願って止みません。

昨年、「信じられない」という言葉が流行語大賞に入りました。プロ野球、日本ハムの優勝に際してヒルマン監督が発した第一声の言葉でした。日本ハムではありませんが、「信じられない」ということが、私たちには実現することがあります。夢に向かって進むとき、私たちには途中で信じられなくなり、諦めてしまうことも多くありますが、夢を実現した人たちのように最後まで信じて、夢に向かって進んで行くことが出来たならばどんなに素晴らしいことでしょうか。

聖書の中には、信じられないことに向かって進んでいった人たちの話があります。その中で、マタイによる福音書に載っている「湖の上を歩く」という記事を見てみたいと思います。

マタイ福音書 14 章 25 ～ 32

「夜が明けるころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちの所に行かれた。弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、『幽霊だ』と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声を上げた。イエスはすぐに彼らに話しかけられた。『安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。』すると、ペトロが答えた。『主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそち

らに行かせてください。』イエスが『来なさい』と言われたので、ペトロは船から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。しかし強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、『主よ、助けてください』と叫んだ。イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、『信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか』と言われた。そして、二人が船に乗り込むと、風は静まった。」

「水の上を歩く」というのは本来不可能なことであります。泳ぐということであれば私たちにも出来ますが、歩くということは出来ません。従って、もし水の上を歩くことが出来たとしたら、「信じられない」ことが起こるということであります。

聖書を見ると、イエスの弟子ペトロがその信じられないことを実行しようとし、ペトロは湖の上を歩いて弟子たちの所に近づいて来た主イエスに「主よ、あなたでしたら、私に命令して、水の上を歩いてそちらにいかせてください」とお願いをしています。

この願いに対して、主イエスは何と言っているのでしょうか。普通ならば、「無謀なことだ」と言って止めるところでしょうが、イエスは願いを聞き、「来なさい」と言っています。

「来なさい」言われたペトロは、言われるままに船から降りて、水の上を歩き出し、イエスの方へ進んで行きます。しかし、すぐに強い風に気がついて恐ろしくなり、「主よ、助けてください」と叫んでしまいます。

大変興味深い場面です。ペトロは不可能と思われることをやっけてしまいます。イエスはそれを止めません。むしろ、「来なさい」と言います。ペトロは不可能なことに臨みましたが、強い風という障害に気がついて恐ろしくなり、助けを求めています。

私たちが夢を持ち、不可能と思われることに挑戦することがあります。勉強でも、スポーツでも、その他大きな夢を持って進むことがあります。しかし、何事も順調に行くとは限らず、強い風、障害に出遭います。世の中は決して甘くはなく、私達の道を阻む多くの障害があります。

ペトロは強い風に気がついて恐ろしくなり、「主よ、助けてください」と叫んでしまいました。聖書を見ると、その叫びを聞いたイエスはペトロを馬鹿にしたり、突き放したりするのではなく、すぐに助けの手を伸ばして捕まえ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われています。

イエスがこう言われた中には、ペトロに信仰を強く持って、疑わないで進みなさい、という深い思いやりと励ましの気持ちがあると思います。

この聖書の記事は、不可能と思われることをはじめから諦めてしまうのではなく、信じて前に進むことの大切さを言っているのではないかと思います。一步を踏み出したときに障害に出遭うかも知れませんが、信じて前に進むのです。

このことは後に使徒ペトロ自身の経験でもあると思います。ペトロは神様の教え、復活した救い主イエスを世界に伝えるという大きな使命を持ち、各地を伝道して歩きました。しかしこの使命を阻もうとする多くの障害に出遭っています。旅の困難や、ヘロデ王の迫害による投獄、ローマ帝国によるキリスト教弾圧など、多くの嵐、障害を経験しています。その都度、ペトロは恐れ、疑い、キリストに助けを求めたことでありましょう。まさに湖の上を歩くような経験であります。そして途中挫折のようなことがありますが、最後まで使命に向かって進むことが出来たのです。最初は疑いつつ始めたことが、

主イエスの助けによって次々に実現していくことを知ったのです。エルサレムから始まった伝道が、当時最大の都ローマにまで行き渡り、多くの信徒と教会を得るまでに達したのです。まさに「信じられない」ことが実現しました。

私たちも、夢や使命感を持って多くのことに挑戦をしていきます。そのときにこのペトロの「湖の上を歩く」記事を心に留めたいと思います。困難の中にも神様を信じて前に向かうのです。はじめから不可能と言って諦めてしまうのではないのです。はじめから諦めてしまうのでは、何事も始まりません。時には失敗し、挫折するようなことがあるかも知れません。しかしそれに負けずに前に向かって進むとき、夢であったことが徐々に現実となっていきます。

新しい道に進む皆さん、それぞれの夢に向かって力強く歩んでください。自分の力だけに頼るのではなく、神の助けを信じて、勇敢、また謙虚に自分の信じる道を進んで下さい。

「主は、とこしえにいます神
地の果てに及ぶすべてのものの造り主。
倦むことなく、疲れることなく
その英知は究めがたい。
疲れた者に力を与え
勢いを失っている者に大きな力を与えられる。
若者も倦み、疲れ、勇士も躓き倒れようが
主に望みをおく人は新たな力を得
鷲のように翼を張って上る。
走っても弱ることなく、歩いても疲れない。」
(イザヤ書 40 章 28 ~ 31 節)





卒園にあたって

阿部浩美

ゆり組 阿部頌平保護者

子供にとって社会生活の第一歩である幼稚園での3年間は、肉体的にも精神的にも大人の何十年分にも相当する成長をとげていると思います。

年少の頃はおぼつかない歩みの中、私に手をひかれて通っていた息子も、最近では誰よりも早く幼稚園に着きたいと、つないでいた

手を振り解くやいなや走りだし、私が追いかけることもたびたびです。また、お友達との遊びの時間、神様との交わりや様々な行事での体験を通して、社会生活の基礎を学び、6歳なりに自分自身で考えて行動できるようになりました。そして何よりも、この世の中で一番大きい方（息子の表現）が神様であることを知りました。幼稚園生活の中で得たことは、これから生きていくうえで、どんな困難にも負けない大きな力の源となるに違いありません。

青山学院幼稚園で学ぶ機会を与えて下さいました神様に、そして子供達をお導き下さいました先生方に心から感謝致します。

卒園生への質問



石橋エリ

ゆり組担任



久 洋子

きく組担任

卒園を前にした子ども達に、4つの質問をしてみました。ここに、その回答の一部を紹介します。

1 友だちに言われて嬉しかった言葉は？

入園当初は「あの子・この子」という存在も、一緒に遊び、笑い、時に喧嘩もしながら3年間を過ごし、卒園を迎えた今は「よき仲間」となりました。そんな友だちに言われて嬉しかった言葉とは……。

- ★ありがとう
- ★一緒にあそぼう
- ★お祈りかっこよかったよ
- ★（工作で作ったものが）すごいね

2 好きな讃美歌は？

歌が大好きな今年の年長組です。沢山歌ってきた讃美歌の中で、印象に残っているのは……。

★「きみがすきだつて」→教会でも歌ったから

★「諸人こそりて」→“主はきませり”が面白い・難しいけどページエントの最後に歌ったから

★全部好き

3 子どものイエス様にお会いしたら、何をしたい？

毎日祈りと礼拝の中で神様に導かれ、イエス様を身近に感じている子どもたちの答えは……。

- ★ブランコで2人乗りしたい
- ★一緒にお祈りをして、神様のことをききたい
- ★イエス様の子ども頃のことをききたい
- ★一緒におうちに住みたい

4 青山学院幼稚園でよかったこと

3年間過ごしたこの幼稚園とは……。

- ★みんなで遊べる場所
- ★何でも好きなことができるから好き
- ★動物がいて楽しい
- ★礼拝ができる

子ども達にとって、次に向かっての第一歩である卒園は、誇らしく嬉しいことです。ひとりひとりの存在が認められ、用いられ、愛されて過ごした日々を心にもって、春からの新しい毎日に向けて巣立って行って欲しいと願っています。



キリストの香りを漂わせる人になりたい

鈴木百合香
6年桜組

「初等部はぶどうの木、私はその枝」——母が卒業文集に書いた言葉です。私も神さまのお導きで祖母、母に続く三代目初等部生として枝に連なることができました。先生方は一人一人の賜物を大切に祈って下さっていたので、安心して毎日過ごせました。また、多くの行事を通して神さまや自然、学年を超えた友達

と出会い、協力したり、赦し合うことを学び、皆と信頼関係を築くことができました。

一番好きな場所は礼拝堂でした。お話を聞き心から賛美し祈ることです。いつもなぐさめられたからです。教会生活や初等部の太い幹につながったことでイエスさまを信じることができました。礼拝堂が変わり淋しいですが祖母の「聖霊は宿り続け、青山学院の伝統ある信仰は受け継がれる」という言葉や、学校行事で平戸や福江島を訪れたときに知った宣教師やキリシタンの命がけの信仰を心にとめ、私も初等部の枝として信仰を受け継ぎ、キリストの香りを漂わせる人になりたいと願っています。



卒業にあたって

鬼頭晃太郎
6年梅組

ついに卒業が間近に迫ってきました。これまで六年間、ほくは礼拝でもその他の所でもたくさんの聖書の言葉にふれる事ができました。その中でも、特に好きな聖句があります。「わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。」(Ⅱコリント4章17節)

二年生の時に千倉のフィールドワークの発表の準備をしていた時、大失敗していやになってしまった時に担任の先生がこの言葉ではげまして下さったのをよく覚えています。また、この聖句は運動会の主題聖句なので、毎年の運動会のたびに耳にする機会があり、身近なものに感じてそのたびにがんばろうという気持ちになりました。

楽しかった初等部とももうすぐお別れですが初等部で出会えたこの聖句を心に留めて、中等部、高等部、そしてこれから生きていく上でも艱難に負けずがんばっていきたいです。



多くのことを学んだ六年間

中田久美子
6年桃組

私は、初等部での六年間でたくさんの経験をし、様々な事を学ぶことができました。五年生、六年生のときには、他の人のために働く総合活動で、私は将来の夢と出会いました。

私は放送プロジェクトに入りました。活動の内容は運動会でのプログラム紹介、ファミリーフェアーでのアナウンス、普段は学校で

のでき事を自分達で原稿を作り、取材をし、カメラで撮影をしたものを校内に放送します。一人一人が決められた役割を果たし、お互いが協力し、助け合う事で一つの番組ができます。みんなで協力して作り上げた番組を無事放送できた時の達成感、今までに経験した事の無い感動がありました。

自分のためだけでなく、他の人のために一生懸命働く事の大切さと喜びを私は初等部の生活の中で学ぶ事ができました。聖書に、喜び人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。とあります。この箇所を思い出しました。私は、この経験を大切に中等部の生活に生かしていこうと思います。

中 等 部



数の道

横山道行

教諭

「整数を創り出したのは神様で、その他の全ては人間の手の仕業である」と数学者ククロネッカーは言いました。中学では算数から数学への第一歩を踏み出します。神様から与えられた数学を知る為の手伝いを私はさせてもらっています。中等部三年間の授業を通して「数学は面白い・好きだ」と一人でも思ってくれ

れば最高です。「数学…う～ん嫌いじゃないよ」も大変嬉しいです。数学は色々な面を持つ多面体です。授業では、その色々な面の一部を紹介しました。とくに私は「言葉としての数学」を意識してきました。数学は科学や経済など様々な事象を表現します。数学は「読み書き算盤」という言葉の算盤（計算）の印象が特に強いかもしれませんが、じつは全てを兼ね備えた言葉なのです。高等学校では数学自身が持つ深さや数学が表現する世界に関心を持って欲しいと思います。

最後に私の好きな言葉の一つ。「道を伝えて己を伝えず。」数の道が皆さんに伝わっていることを願って…。58期生、卒業おめでとう。



中等部卒業にあたって

須藤かりん

3年A組

私はここ青山学院には中学受験をして入りました。

それからは毎日が充実していてとても楽しかったです。素敵なお先生方、頼れる先輩、可愛い後輩に気の置けない友人たち…。その中ですごした日々の素晴らしさと言ったら、到底筆舌には尽くせません。

受験当時、私は志望校を決めるに当って

「ミッションスクールであること」を第一条件として考えていました。私は幼稚園からずっとキリスト教に触れてきていたので、割と自然な流れといえました。幼稚園入園時から通っている教会の牧師先生も青山学院大学の出身で、私が中等部を受験するとを伝えた時にはとても喜んで下さったことを覚えています。

その後、無事に合格し中等部で聖書を学ぶうちに私の中に「クリスチャンの方で不幸な方は見たことが無い、洗礼を受けて神様を信じるということはこうも幸せなことなのか」という考えが生まれ、中学一年生のイースターから私はクリスチャン・ライフを歩み始めました。苦しい事や辛い事は尽きる兆しすら見せないけれど、神様と一緒に総て乗り越えていける気がします。



聖書との出会い

中川雄暉

3年D組

「鉄は鉄を持って研磨する。人はその友によって研磨される。」（箴言 27 章 17 節）

中等部での僕の三年間はこの聖句の通りだったと思います。先生方や友達、周りの人によって成長することができました。さらにそれだけでなく新しい経験によっても成長できたと思います。特に大きな影響を受けたの

は聖書との出会いでした。幼稚園で礼拝の経験はありましたが、本格的な学習は初めてでした。悲しい時、うれしかった時、日頃の多くの場面で聖書を通して物事を見ることができました。それによって助けや励みになり、感謝の心につながりました。

このように人は常に関わり合いによって、様々な事から学びを得ています。また大切なのはこの学びに気付く心だと思います。中等部を卒業してからも、学びを受け入れる素直な心を持ち続けていきたいです。



高等部を卒業 すること

池田 敏
教諭

米国では大学の卒業式（学位授与式）を commencement と言います。この言葉は、始まりという意味です。人生の大きな節目を、終わりと捉えるのか、始まりと捉えるのか、歩みが変わってくるはずです。卒業生には、この季節を有終の美として輝かせていただきたいと思いますが、それ以上に高等部で育んだものを胸に未来を見つめていただきたいの

です。

この時代、世界は明るい輝きを示してはいません。テロ、貧困、エネルギー問題、格差…不安が支配を強めています。そんな中でも、私は絶望していません。卒業していく人たちに希望を持っているからです。

「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」(マタイ 5:9)

生徒たちこそ、平和を作っていく人たちと信じています。今、その出発点に立っていると考えてもらいたいです。生命の躍動が感じられるこの季節、peace maker の自覚を胸に歩みだしていただければとお祈りしております。



私に与え られたもの

福田朋世
HR306

高等部卒業を前にして思うのは、多くの貴重な出会いについてです。

私は二つの部活動をしてきました。ボランティア部では部員や先生はもちろん活動を通して普段出会えないような方々に会い、ブラスバンド部では毎日練習を共にし、一緒にいると本当に楽しい仲間や熱心なコーチが私を変えました。

部活動だけではありません。勉強熱心でユーモアのある留学生たちとの出会いもありました。部活動を応援してくださるなど、授業以外でも私の道を広げてくださった先生方も、今になると離れるのが寂しく思われます。そして、授業中にはうるさいと怒られることもしばしばだったけれど、でも他のクラスがしらけている時も、ダンスや文化祭のときも、何かあるとみんなで盛り上がり笑ったホームルームのみんな。

この素敵な出会いを神様が導いてくださったと考えると、なんて素晴らしい恵みだろうと感謝してやみません。



高等部で学び 得たこと

米島百合子
HR306

時が経つのは本当に早く、いよいよ卒業の日を迎えます。私は高等部で初めてキリスト教に触れ多くのことを学びました。聖句に耳を傾けているとその言葉一つ一つが持っているエネルギーに後押しされました。また聖歌隊で宗教曲に触れ、キリスト教により、多くの素晴らしい音楽が作られたことに感銘を受けました。

三年間引退なしにやり遂げた聖歌隊は私をとて成長させてくれました。練習の大切さ、努力の素晴らしさ。コンクール、文化祭、クリスマス・コンサートに定期演奏会など数多い行事をいかに効率よく楽しくこなすかという計画性。そして何より全員で一つの音楽を作る楽しさ、団結力。聖歌隊で得たものは一生の宝物になると思います。

三年間を振り返り、私は支えてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。個性的で優れた友達や心から尊敬できる先生方等、良い刺激を受けられ本当に有意義な高校生活でした。これからも感謝の気持ちを忘れず、常に前を見つめて一歩一歩進みたいと思っています。

女子短期大学



キリスト教に 出会って

松林亜友美

国文学科 2年

短大に入って大きく変わったことといえば、キリスト教との出会いにある。それまで私は、クリスマスや結婚式といったイベントでしかキリスト教と触れ合う機会がなかった。しかし、青短では、日々の礼拝やキリスト教学といった授業があり、キリスト教を知る機会を得ることができた。なので、以前よりも増してキリストの教えに親しみを感じるようになった。また、世の中で起こっている出来事に対して、自分なりの考えが持てるようになり、自己成長できたと思う。

キリスト教の授業で先生がおっしゃった言葉に、印象的で今でも心に響いているものが

ある。それは、「現代において、絶対に聖戦が起こることはない」というお言葉である。神自らが戦争を起し、先頭にお立ちになり、彼らのために勝利を得て下さるもの、それが聖戦だという。確かにどんな争いであっても、正しいといえる戦争などない。何か理由があつて戦争をするのだとしたら、それは正当化する口実にすぎないのだ。過ちを過ちと認め、素直になることが最も大切なのではないかと思う。

だから、私は社会に出るにあたって、次のことを守っていこうと決めた。人の意見に流されずに、本当に正しいことは何なのかをしっかりと見極め、行動する。そして、自分のしたことに責任を持つ。

最後に、キリストの教えを学べたことに感謝したい。

大 学



ただ、 恵みにより

内山寛平

国際政治経済学部
国際経済学科 4年

4年間という僅かな時間ではあつたが、キリスト者として入学を許され、本学で学問を修めることのできる事がただ恵みのときであつたと感謝している。それは大学生活が私の知識を豊かにするという事だけの恵みではなく、その日々の生活の中に神の真理を垣間見ることができたからである。

国際政治経済学という社会全体を対象とする学問を専攻してきたが、向き合わされた社会に一貫して溢れているものは、何よりも人間の罪深さであるように私は思う。そしてその罪に無関心である私の姿を示されたように思う。

4年間所属した青山キリスト教学生会での聖書研究もそのような意味を持っていた。聖

書の御言葉を前にして、神の御前に立つ自分自身を知るとき、神への徹底した不従順や、御言葉を分かち合う友に対する愛の乏しさを突き付けられた。そこで御言葉と本気で格闘し、友と本音で語り合うときに、キリストの福音が私のためであることを覚えさせられた。在学中に回心を経験した数名の友人に出会わせてくださったことは何にも代え難い恵みであつた。

青山学院大学が様々な困難の中で日々守り続けている大学礼拝は、そこでキリストの福音が語られる限り、私たちの学びが果たして神の真理に基づいているだろうかと確認をさせてくれるだろう。キリストの福音のゆえに私は自由にされ、学びの中にもキリストの福音の喜びを見出だすことができた。

この4年間の大学生活を心から神に感謝すると共に、新たな歩みを待ち望みたい。

「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」

(ヨハネによる福音書 8章 32節)



賛美の喜び

まなか
西条真心

文学部教育学科 4年

四年間の大学生活の中で、神様を賛美する機会がたくさん与えられました。そして、賛美をすることを中心とした日々の中で喜びと充実感を得ることができました。

大学聖歌隊に所属し、学内の礼拝や行事をはじめとした様々な機会を通して、歌による賛美を行ってきました。全国各地への演奏旅行や演奏会で、多くの人々と賛美の喜びを分かち合うという経験もすることができました。聖歌隊のメンバーにはクリスチャンでない人も多いのですが、クリスチャンであるか否かに関わらず、神様が一人ひとりを“器”として用いてくださっているというとても大切なことを学ぶことができました。また、オ

ルガニスト養成講座を受講することができ、力強さと繊細さを併せ持つパイプオルガンによる賛美の素晴らしさを知りました。大好きなJ.S. バッハの曲を自分自身で演奏できることの喜びと、曲に込められた意味とを噛み締めながら練習に励みました。とても貴重な時間を与えられ、感謝しています。

音楽活動をする中では、自分の音楽が賛美に値するのか、という疑問にぶつかることもたくさんありました。常に神様を賛美し続けるということがとても難しいということも知りました。しかし、そのような思いを神様は全てご存知で、私の拙い音楽さえも賛美にふさわしいものに変えてくださるということに気づかされました。そのことがこれからの私の歩みの中で大きな支えとなっていくことと思います。

卒業後、どのように音楽と関わっていくことになるのかまだ分かりません。ですが、少しでも神様への賛美に値するような関わり方ができれば幸いです。



なんぢ我とともに在せばなり

立山朝子

法学部法学科 4年

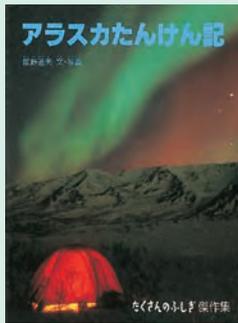
大学に入学する前、私は自分の信仰に確信が持てませんでした。教会生活や日々の聖書通読、祈ることは私にとってあまりにも日常的であり、それがクリスチャンとして私が望んでいるためなのか、幼い頃から母に教えられてきたことを情性で行っているためなのか分からなくなっていたからです。

大学に入学し、慣れないひとり暮らしを始めると、言葉に言い表すことのできない漠然とした不安が私の心に生まれました。しかし神の前に祈ったときにみことばの励ましがあり、神の平安が与えられました。同時に生きて働かれる神と聖書のみことば、今までの守られていた生活に気づかされました。

大学生活においては青山キリスト教学生会(ACF)に入り、多くのクリスチャンの友人が与えられました。共に祈る仲間が与えられたことは、私にとって本当に大きな財産です。この4年間を通し、神はご自身を示し続けてくださいました。たとえ私が見失ったとしても聖書や友人を通して語りかけ、神に対する信頼と信仰の確信を失うことがないように、失ってもすぐに回復することができるように、すべてを整えてくださいました。「たとひわれ死の影の谷を歩むとも禍害をおそれし なんぢ我とともに在せばなり なんぢの答なんぢの杖われを慰む」(詩篇 23:4 文語訳)というダビデの賛歌は私にとってまた真実です。

これからどんな人生が備えられているのか私にはわかりませんが、いつも真実で語り続けてくださる神に従い続けようと思います。

出発にあたって 先生がたからのすいせん図書



『アラスカたんけん記』

文・写真 星野道夫
福音館 1986年

アラスカに暮らしながらアラスカの動物や自然や人を写真に撮り、心に残るすばらしい文章をたくさん残された星野道夫さんが、子ども達向けに、写真と文によってまとめた本です。幼稚園を卒園する皆さん、今まで皆さんが読んでいた絵本に比べると少し字が多いかもしれませんが、ぜひこの本を見て読んで、まだ行ったことのないアラスカの空気や匂いを感じ、そして心を動かしてみてください。



『ペツエツティーノ』

レオ＝レオニ 谷川俊太郎 訳
好学社 1975年

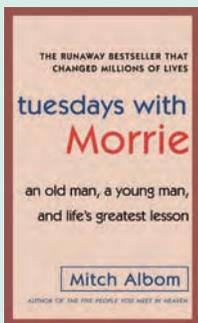
自分は誰かの取るに足りない部分品だと思っていた小さなペツエツティーノ。誰の部分品なのかを確かめる旅の途中、なかなか見つからずに疲れ果て、つまずいて転がりおち、粉々に……そのとき、ペツエツティーノには分かりました。自分もみんなと同じように、部分品が集まって出来ているのだと。「ほくは、ほくなんだ！」と。このような喜びと自信をもって、新たな1歩を踏み出してほしいと思います。



『アルケミスト』

パウロ・コエーリヨ 著
角川文庫

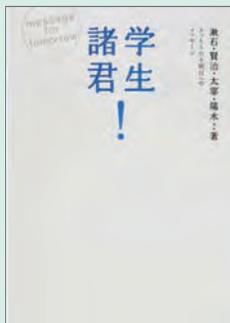
この本は、長い時間、生活を共にした羊を売り、夢を信じて旅をして、ついには夢を手に入れる羊飼いの少年サンチャゴの物語。サンチャゴは旅していく中で起こる様々な出来事を素直に受け止め、人生の知恵を学び、力強く生き、成長していく。世界中の人々に読まれている夢と勇気と愛の感動の物語である。この物語は、あとがきにもあるように夢を諦めずその夢を生きることが如何に大切かを私達に示唆してくれることだろう。



“tuesdays with Morrie”

Mitch Albom
Broadway Books, 1997

「筋萎縮性側索硬化症」という病気で死を目前にしたある大学教授が、教え子(＝著者)に与えた最後のライフ・レッスン。“People are mean only when they're threatened.”(人は恐怖を感じているときだけ卑しくなる。)という彼の言葉が一番印象的だった。高等部3年 Advanced Class の副教材。邦訳も出ているが、読み易いので洋書を初めて読破したい人にもお勧めしたい。



『学生諸君!』

漱石・賢治・太宰・陽水ほか
光文社 2006

「生徒諸君 諸君はこの颯爽たる 諸君の未来圏から吹いて来る 透明な清潔な風を感じないのか」と宮澤賢治は迫る。32人の賢者たちの若者へのメッセージが集められた本だ。みずみずしい言葉が、若者のみならず、かつて若者であった者の心にも沁み透る。若者に真剣に対峙しようとするれば、自ずとこの世界をどう見るか、我が身はどうあるべきかという問いに向き合わざるを得ない。そのような大人たちへの力強い言葉でもある。



『青銅の弓』

E・G・スピア 渡辺茂男 訳
岩波書店

E・G・スピア作の児童文学作品『青銅の弓』(1961)。時はイエスの時代、あるユダヤ人の若者がローマ兵への復讐の念に打ち克ち、敵を許すことを覚えてゆく、その心の旅が抑えた口調で語られます。象徴的な題名は、彼が愛唱するダビデの歌の一節、「神わが手に戦いを教えたまえば／わが腕は、青銅の弓をもひく」から来ています。

選者：①石橋エリ(幼稚園)、②久 洋子(幼稚園)、③樫澤保壽(初等部)、④喜多正裕(初等部)、⑤田中拓生(中等部)、
⑥林 謙二(中等部)、⑦・⑧田中由紀(高等部)、⑨・⑩山田美穂子(女子短大)、⑪本田重美(大学)、⑫渡邊千秋(大学)



④

『貧しき信徒』

八木重吉 著
新教出版社

八木重吉の、短く、やわらかい言葉は、いつ読んでも心に響きます。この詩集のどこを開いても、優しく素直な言葉に出会えます。神様と共に歩んだ先達の詩は、これから出発するみなさんに大きな力を与えてくれるはず。心とした時に開いてみてください。その中の一つ、「仕事」という詩を紹介します。「信ずること キリストの名を呼ぶこと 人をゆるし出来るかぎり愛すること それを私の一番のよい仕事としたい。」



⑤

『家族力』

齋藤 孝 著
晶文社

現代人のモラルや常識力の低下、また、教育現場が抱える様々な問題の根底にあるものは、近年加速化しつつある家庭環境や家庭教育力の低下であるといっても過言ではないと思います。そんな私たちに、この本は、家族の愛の大切さを、改めて感じさせてくれます。著者は最近 TV でも活躍中の齋藤孝先生です。



⑥

ハンディ版『入門歳時記』

大野林火 監修
俳句文学館編

主なる神様が創造された自然、その中で育まれた人々の営み。日本は豊かな四季の変化に恵まれています。そして、そこから季節が生まれました。『歳時記』と聞いて、「俳句」がすぐに心に浮かぶ中等部生は国語の授業をよく聞いていた生徒ですね。「俳句」に興味がなくても、単なる読み物としても楽しめます。意外な発見があるはず。



⑩

『クワイ河収容所』

アーネスト・ゴードン 斎藤和明訳
筑摩書房

ごく普通の若者であった著者が、極限状況の中で仲間のために命を捨てる友の姿を通じてキリストの教えを知り、人間の条件とは何か、という問いに目覚めてゆく、その過程が強く心に残ります。⑨と⑩は 1960 年代初頭、奇しくもほぼ同時に出版されました。あの動乱の時代から半世紀近くたった今もなお、憎しみの悪循環を断ち、本当の意味での強さを生み出すのは愛しかないことを訴え続けています。



⑪

『沈黙』

遠藤周作 著
新潮文庫

遠藤周作の代表作『沈黙』は、切支丹禁制の時代に日本に潜入した若き司祭ロドリゴについて書いたキリスト教文学的歴史小説です。キチジローという狡猾で弱い日本人は、イスカリオテのユダと読者自身の二重写しになり、日本人の宗教的内面を改めて考えさせます。神の沈黙という作者独特のキリスト教観に強くひかれます。この本の読破を契機に、さらに『キリストの誕生』、『イエスの生涯』と読み進めることをお勧めします。



⑫

『ミラノ霧の風景』

須賀敦子 著
白水社 U ブックス

著者は上智大学で教鞭をとった「遅咲き」のエッセイスト。イタリアに留学し、結婚。しかしその夫に先立たれ、日本に戻った。時を経て、イタリアでの日々を綴ったのがこの本である。彼女自身が経験した出会いと別れを穏やかに緩やかに描きながら、人間の思惑を超えたことばかり起こる「人生」という長い道を歩む意味を読者に問いかける。行間の端々から、信仰をもつことの奇跡が私たちの心に響いてくる秀作である。

氣賀 健生

大学名誉教授

青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料紹介第18回は、来日メソジスト宣教師の本国宣教局への報告書・私的書簡等の史料を紹介いたします。これらの文書は、北米ニュージャージー州マディソン市のドゥルー大学構内にある Methodist Archives に於て、1991年に筆者が蒐集したものです。この文書館はニューヨークのメソジスト本部直轄の史料館で海外伝道に関する史料は殆どここに集められています。日本のメソジスト教会黎明期の明治年間(日本のメソジスト教会宣教開始は1873年)から大正・昭和年間にかけて、即ちプロテスタント各派が合同して日本基督教団が誕生する1941(昭和16)年に至る全期間に、それぞれ日本の各地に於て伝道に教育に盡した宣教師達の生の声を聞くことが出来る、大変貴重な史料です。但し、宣教師達もひとりの人間ですから、いろいろと個人的事情もあり、彼らのプライバシー保護の上からも公表できないものもあり、すべての文書はドゥルー大学のメソジストの史料館によって厳重に管理され、学問的研究以外の目的には公開してはならない旨のスタンプが一葉ごとに刻印されています。

まずアレクサンダー (Robert Percival Alexander)

R
・
P
・
アレク
サン
ダー



から宣教局本部への書簡。宛名は Leonard となっていますが、彼は当時の宣教局本部総主事で有能な人物。アレクサンダーは1893年来日。東京英和学校(青山学院の前身)、弘前の東奥義塾で暫く教えた後、その後半生を1907~40年の長期に亘って青山学院で教え、多くの学生から敬愛されました。日本ミツシヨンの財務を担当し、在日カナダ人協会会長をつとめ、御殿場宣教師村の創始者の一人で、1940年1月6日逝去。日本に骨を埋め、多摩霊園に葬られています。筆者は彼の逝去の直後1940年4月に青山学院中学部に入学、その温容に接する機会を逸

し、残念の想いを禁じ得ませんでした。

さて、Alexander から宣教局本部宛、1904年8月15日、札幌にて。これは東奥義塾に在任中、北海道を訪れた時のもので、弘前教会再建に宣教局本部の協力をまず感謝し、北海道は日本で最も気候の美しい所、と感想を述べています。そして折から始まった日露戦争にふれ、日本の連戦連勝を報告し、然し戦死者が曠野に累々と横たわっている状況が語られて、10年前の戦争(日清戦争)の時のような国民的感情の高まりはない、と観察し、キリスト教国のロシアに対して、仏教徒がこの戦況を利用しているが、日本の軍部はこのことを無視している、と述べています。そして、もしこの戦争が長びけば、教会の自給(Self-support)は難しくなるであろう、と見えています。次に、1910年12月27日青山学院からの書簡は、まず、洪水があつて手紙を書くのが遅れたことを謝し、家庭の事情を綿々と書いた後、他の宣教師の動向にもこまごまと触れています。カナダ・メソジスト教会とアメリカ南部メソジスト教会の日本における神学教育機関の合同の問題について、現地駐在員としては一考を要する旨の考えを述べています。更に、本多庸一監督は家庭の病人と教会の両方に重荷を負っていて大変、と同情しています。最後に浅間山が爆発して東京にも影響があつたけれども、その後は好天気が続いて大丈夫、と終っています。1910年1月1日、翌年1月1日、1911年5月23日、同26日の報告書では Methodist Mission House の財務について、極めて詳細な会計表を送っています。

次にベリー (Arthur Daniel Berry) の書簡。ベリーは1902年来日、直後3年間、福岡、門司で宣教。1905~31年の長期に亘って青山学院で神学部教授・神学部長をつとめ、特に1923年の関東大震災後の復興には多大の役割を果し、ベリーがいなければ復興は不可能であつたとさえ

ベリーがいなければ復興は不可能であつたとさえ



A
・
D
・
ベ
リー



ベリー・ホール（現青山学院本部）

言われています。青山学院神学部の建物は現在学校法人本部が入っていますが、ベリー・ホールとよばれ、彼の貢献を永く記念しています。Berryの長文の報告書を紹介します。これは日本へ赴任後まもなく書かれたもので、20世紀初期の日本でのキリスト教伝道の様子がよく書かれています。「私は昨年9月日本へ来て以来福岡に駐在しています」という書出して、日本語の勉強、通訳つきでの説教、青年たちに英語聖書を教えていることを述べ、彼らの目的は英語そのもの、我々の目的はキリスト教、とよくある微妙な食い違いを伝えていますが、この5ヵ月に13人受洗者を出したと報告しています。門司でのバイブルクラスの主流は高校の先生達で、他にはビジネスマン達ですが、バイブルクラスがどんどん大きくなり、門司に駐在してほしいという要請があるので、近々門司に移るつもり、と言っています。ここは南日本のシアトルとも言うべき海運・鉄道の要衝で、人々は大変親切、という観察をしています。門司にはバプテスト教会と聖公会を除いては、宣教師は私だけと言い、メソジスト教会の宣教師のいる所は南日本では長崎、福岡、鹿児島、熊本、門司の5カ所であるが、門司以外の都市には教会堂がある。教会堂と云っても宣教師住宅というような普通の家で充分であって、もし土地と家のために\$5,000あれば門司に神の王国 (God's Kingdom) が建てられるのだが、このことを Moore 監督に伝えてほしい、と結んでいます。これは12ページに及ぶ長文の書簡ですが、英語も平易、文字も綺麗で読み易く書かれています。手書きの書簡は書き手によって

は大層読みづらいものもありますが、Berryの書簡は模範的です。それから1910年9月19日に、メソジスト出版局 (Publishing House) の件に関して、Berryは、Soper、Spencerと共に次のような報告及び要請を宣教局本部に送っています。即ち、出版局の仕事はメソジストのみならず、他教派はすべて途中で挫折したのでその分の世話までするに至っている、と述べ、ここは東京銀座の一等地で、政府機関、新聞社、出版者、外交官庁などが近くにあり、現在これ以上の好条件の土地は望めない、財政問題を別とすれば、このオフィスはプロテスタント・ミッション伝道の中心的役割を果たしている、と現況を報告し、1906～08年までに約10万円の赤字を計上し、以後も赤字が続いているので、宣教局本部が毎年5,000円援助してくれば、伝道のための書籍等も発行できるし、日本の税金が上がったのが痛いので、毎年もう1,000ドルの援助がほしい、と結んでいます。

次にブラックレッジ (James Blackledge) の長文の書簡を紹介します。彼は1882年来日し、滞日中東京英和学校時代の青山学院に奉仕しました。1886年帰米、カリフォルニアのマクレー神学校教授をつとめました。彼は青山学院で野球を教え、これは日本で最初の学生野球チームとして著名です。僅か4年足らずの勤務中に、24人以上もの受洗者を出すなど、宣教に於て大活躍をしました。1885年12月、彼の家庭を訪問していた妻の母が滞在中に逝去し、その記念に、構内のフィランダースミス神学校の塔に時計台と鐘を、そして図書館に本を、寄付しました。不幸にして二人めの子供の出産時に妻が不治の病にかかり、やむなく1886年帰米しました。この書簡は帰米に当り、横浜で認められたものと思われ1886年6月28日の日付けとなっています。その書簡には妻の病状が詳しく書かれ、日本での生活もよくわかり、彼の滞日中の苦労や、僅か4年で帰米した事情が解ります。(以下次号)



J・ブラックレッジ

日本キリスト教会 柏木教会

久保小枝子

幼稚園教諭

私の通う柏木教会の歩みは、1930年に故植村環牧師が自宅で学生の求めに応じて開いた聖書研究会に始まります。聖書の教えを求める人は増え続け、翌年には柏木伝道教会が建設されました。植村環牧師の説教は、苦しむ者と共に苦しみ、悲しむ者と共に悲しみ、人々を魂の根底から励ますものであったと言われております。戦時下において会堂を焼失しましたが、日曜日の礼拝は休むことなく守り続けられ、柏木の地における伝道が続けられてきました。そして1949年、会堂は再建されました。また、1950年頃に信仰の一致に基づく教会形成の必要を感じていた植村環牧師は、柏木教会と共に新しい日本キリスト教会に加わりました。日本キリスト教会は、信仰的には改革教会、教会制度上は長老教会の伝統を受け継いでいます。

この様な歴史をもち、1981年には教会建設50周年を記念して現在の新しい会堂が建てられ、昨年75周年を迎えました。

教会建設75周年記念礼拝では、大浦勝



牧師が「真理のためならば」という題で聖書の御言葉を説き明かして下さり、教会員一同思いを寄せ、新たな一歩を踏み出しました。またこの年、村松恵美牧師、大石周平伝道師も加わり、牧会体制も整えられました。

毎主日の礼拝は朝礼拝が午前10時から、夕礼拝が午後7時から守られます。朝礼拝は160名程の人たちが共に礼拝を守ります。また府中にある多摩集会所においても午前10時30分より礼拝が行われています。礼拝後は月に一度程度、壮年会、婦人会、野の百合会、テモテ会、ガリラヤ会、青年会の6つの団体が、学びと交わりと奉仕の時をもっています。また毎週午前8時45分より、子どもたちを対象とした日曜学校が開かれています。

実はこの日曜学校は、私自身が子ども時代礼拝を守った場でもあります。奇しくも現在幼児教育に携わっている私にとって、週に一度この場に戻ってくることは、大切なことを思い起こさせてくれる契機となり、今の私自身の生き方を方向づける源となっているように思うのです。また週に一度、神さまの前に出て礼拝を守ることは、一週間の私自身の歩みを顧み、そこから再出発する力を与えられているように感じています。



東京都新宿区北新宿 3-1-18
 TEL 3368-2156 / FAX 3363-7355
 交通アクセス
 JR 中央・総武線 大久保駅下車 3分
 JR 山手線 新大久保駅下車 8分
<http://www.h6.dion.ne.jp/~kasiwagi/>

幼稚園 より

いよいよ卒園、進級の時となりました。冬の寒さの中でも元気に外で遊ぶ子どもたち、自分なりの工夫を重ねながらじっくりと製作に取り組む子どもたち、一人ひとりを育てて下さった神様に感謝する毎日です。

卒園礼拝

3月8日（木）

年少組の時から親しんできた礼拝室で、年長児と年長児の保護者が共に幼稚園で最後の学年礼拝を守ります。学院宗教部長の東方敬信先生による説教をお聞きます。

終業礼拝

3月12日（月）

それぞれの学年の子どもたちが成長してきたことを喜び、一年間の日々の歩みを守り、育てて下さった神様に感謝します。年少児は卒園児に手作りのプレゼントを贈り、一足先に卒園を祝います。

卒園式

3月13日（火）

幼稚園で3年間を過ごし、様々な経験を通して心身共に成長した年長児が、神様への感謝にあふれて巣立っていきます。卒園児を送り出す年中児による合奏のプレゼントもあります。

（教諭 生沼晴美）

初等部 より

卒業礼拝

3月12日（月）

6年生のみで守る卒業礼拝。この日から卒業式へ向けての準備が始まります。

説教者は小澤淳一宗教主任。

6年生を送る礼拝

3月15日（木）

在校生が6年生を送る礼拝。6年生からそれぞれの学年に御言葉とともに、「友情の火」と呼ばれる口ウソクの炎を贈ります。奨励者は樫澤保壽先生。

フィリピン訪問プログラム

3月21日（水）～27日（火）

5年生4名が献金で支えているチャイルド・ファンド・ジャパンのスポンサード・チャイルドを訪問し、フィリピンの現状を見聞します。今年は、初等部、大学の合同のプログラムを行い、初めてセブ島を訪問します。

（宗教主任 小澤淳一）

中等部 より

献金

生徒・教職員・保護者によって捧げられたクリスマス献金は、中等部祭での売り上げと毎月の保護者聖書の会での献金とを合わせて、34箇所の団体・施設にお送りしました。献金の合計は930,818円でした。

また、月に一度ホームルームで捧げられている献金は、友情献金・CFJ献金・JOCS（キリスト教海外医療協力会）献金として用いられています。

卒業礼拝

3月14日（水）

日本基督教団駒場エン教会牧師の笹森建美先生をお迎えして行います。

中等部での3年間を感謝と共に振り返り、新しい歩みへの心備えをする礼拝です。

（宗教主任 西田恵一郎）

高等部 より

クリスマス礼拝

12月19日(火)

第1部の礼拝では、アーサー・ホーランド師が「あなたへのプレゼント」と題して楽しく、また意義深いクリスマスメッセージをして下さいました。

第2部の祝会は、有志による手作りの会で、演劇部の降誕劇、ダンス同好会有志の降誕を祝うダンス、有志3団体の楽しいクリスマス演奏がありました。

クリスマス献金

今回もクリスマス礼拝の中で、各クラス代表によってクリスマス献金が捧げられました。生徒、保護者(保護者聖書の集い出席者含む)、教職員、同窓会の方々によって捧げられた献金合計は、1,362,129円でした。

アジアキリスト教教育基金(ACEF)、チャイルド・ファンド・ジャパン、アジア学院他、20の団体と卒業生伝道者14名に贈ることが出来ました。

卒業礼拝

3月8日(木) 13:15～ PS 講堂

今年度の卒業式は3月10日(土)ですが、それに先立って、卒業礼拝を行います。

説教者は田坂興亜氏(高等部6期生、アジア学院常任理事)です。

(宗教主任 坂上三男)

女子短大 より

卒業礼拝

3月22日(木) 13:30～

青山学院講堂

(宗教活動委員 西願広望)

大学 より

フィリピン訪問プログラム

3月17日(土)～26日(月)

初等部と合同のプログラムですが、大学からは4名の学生が参加し、フィリピンの現状を見聞してきます。

オーストラリア・クリスチャンファミリー・ホームステイプログラム

2月18日(日)～3月10日(土)

クリスチャン家庭に滞在しながら、オーストラリアの文化、英語、キリスト教社会(家庭)を体験します。

高等部内部進学生とのキリスト教懇談会

3月8日(木) 17:30～

宗教センター談話室

大学卒業礼拝

3月24日(土) 10:00～

ガウチャー記念礼拝堂

説教 東方敬信宗教部長

(宗教センター事務室 平野修一)

編集後記

「乗り物は速くなったが人は孤独になった。知識はふえたが豊かな感情をなくした。人よりも機械が、心よりも知識が優先される。そんな人生は無に等しい。」「しかし、絶望してはならない。神の国は汝等の中にあり、特定の人でなく、皆の一人一人の中にあるのだ。」

映画「独裁者」チャップリンの言葉である。ワンチャンスしかなかった時代を経て今やシャッターチャンスは何度でもあり、無駄なものはどんどん切り捨てカットしていく時代にある私達は、無駄な物はこの世にないという、決して見捨てない教育を実践することが大切ではないでしょうか。卒業特集からそのヒントを。(池田敬介)

Wesley Hall News 第91号

発行 青山学院宗教センター 宗教部長 東方敬信
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-6537 (ダイヤルイン)
URL.<http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html>
E-mail.agcac@jm.aoyama.ac.jp
編集 ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会
印刷 万全社